



|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 北海道渡島半島沿岸から記録された2種の魚類, メゴチとヒゲセジロハゼ                                                |
| Author(s)        | 小谷, 健二; 今村, 央                                                                     |
| Citation         | 北海道大学水産科学研究彙報, 59(2), 43-46                                                       |
| Issue Date       | 2009-08-03                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/39008">https://hdl.handle.net/2115/39008</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 59-2_002.pdf                                                                      |



## 北海道渡島半島沿岸から記録された2種の魚類, メゴチとヒゲセジロハゼ

小谷 健二<sup>1)</sup>・今村 央<sup>2),3)</sup>

(2009年3月17日受付, 2009年4月13日受理)

### Records of the Two Fishes, *Suggrundus meerdervoortii* (Bleeker, 1860) and *Clariger papillosus* Ebina, 1934, from the Southern Coast of Oshima Peninsula, Hokkaido, Japan (Pisces: Teleostei)

Kenji ODANI<sup>1)</sup> and Hisashi IMAMURA<sup>2),3)</sup>

#### Abstract

A platycephalid, *Suggrundus meerdervoortii* (Bleeker, 1860) (HUMZ 173209, 21.8 mm SL), and a gobiid, *Clariger papillosus* Ebina, 1934 (HUMZ 200854, 18.5 mm SL) were collected from off the southern coast of the Oshima Peninsula, Hokkaido, Japan, in 2000 and 2007, respectively. In Japan, the former species has been known from the East China Sea to south of Aomori Prefecture and the latter species from Honshu to Kyushu including Sado Island and Izu-Oshima. These represent the first records of the species from Hokkaido and their northernmost records in Japan.

**Key words:** *Suggrundus meerdervoortii*, *Clariger papillosus*, First and northernmost records, Hokkaido

2000年および2007年に北海道南部沿岸からコチ科魚類およびハゼ科魚類が1個体ずつ採集された。これらの標本を分類学的に調査した結果、それぞれメゴチ *Suggrundus meerdervoortii* (Bleeker, 1860) およびヒゲセジロハゼ *Clariger papillosus* Ebina, 1934 と同定された。メゴチは青森県以南から東シナ海、および黄海から報告されており (Matsubara and Ochiai, 1955; 落合, 1984; 本間, 1992; 塩垣ら, 1992; Imamura et al., 1996; Nakabo, 2002), ヒゲセジロハゼは青森県から宮崎県、佐渡島および伊豆大島に分布するとされている (Ebina, 1934; 松原, 1955; 明仁親王, 1984; 塩垣, 1982; Akihito et al., 2002)。本研究では北海道南部沿岸より採集されたメゴチおよびセジロハゼを北海道からの初記録種とするともに、これらの2種の北限記録として報告する。

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1958) に従った。メゴチの第1背鰭の表記は Imamura and Knapp (2009) に従った。本研究に用いた標本は北海道大学総合博物館 (HUMZ) に登録・保管されている。

稿を進めるにあたり、御助言を賜った北海道大学の仲谷一宏名誉教授ならびに北海道大学大学院水産科学研究所の矢部 衛教授、標本を送付して下さった松田泰平氏および

北海道大学大学院水産科学研究所の谷 敬志氏、および英文要旨を校閲して下さいした California Academy of Sciences の Tomio Iwamoto 博士に対し、深く感謝の意を表する。

#### メゴチ

*Suggrundus meerdervoortii* (Bleeker, 1860)  
(Fig. 1)

#### 材料

HUMZ 173209, 標準体長 21.8 mm, 北海道北斗市上磯沖、水深 4 m, 2000 年 10 月 1 日。

#### 記載

背鰭鰭条数 I+VII-11, 臀鰭鰭条数 11, 胸鰭鰭条数 20, 腹鰭鰭条数 I, 5, 脊椎骨数 27, 鰓耙数 1+9=10, 側線鱗数 52。

体長に対する各部位の百分率 (%): 頭長 42.7, 頭高 14.7, 頭幅 23.9, 体高 14.2, 吻長 12.8, 眼窩径 11.5, 眼後長 19.3, 両眼間隔 4.1, 第1背鰭前長 40.8, 第2背鰭前長 63.3, 腹鰭前長 42.7, 臀鰭前長 65.1, 胸鰭長 21.6, 第1背鰭基底長 21.1, 第2背鰭基底長 24.8, 臀鰭基底長 26.1, 尾柄長 8.7, 尾柄高

<sup>1)</sup> 北海道大学大学院水産科学研究所海洋生物学講座  
(Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Research Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University)

<sup>2)</sup> 北海道大学総合博物館  
(The Hokkaido University Museum)

<sup>3)</sup> 現住所: 北海道大学大学院水産科学研究所海洋生物学講座  
(Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Research Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University)

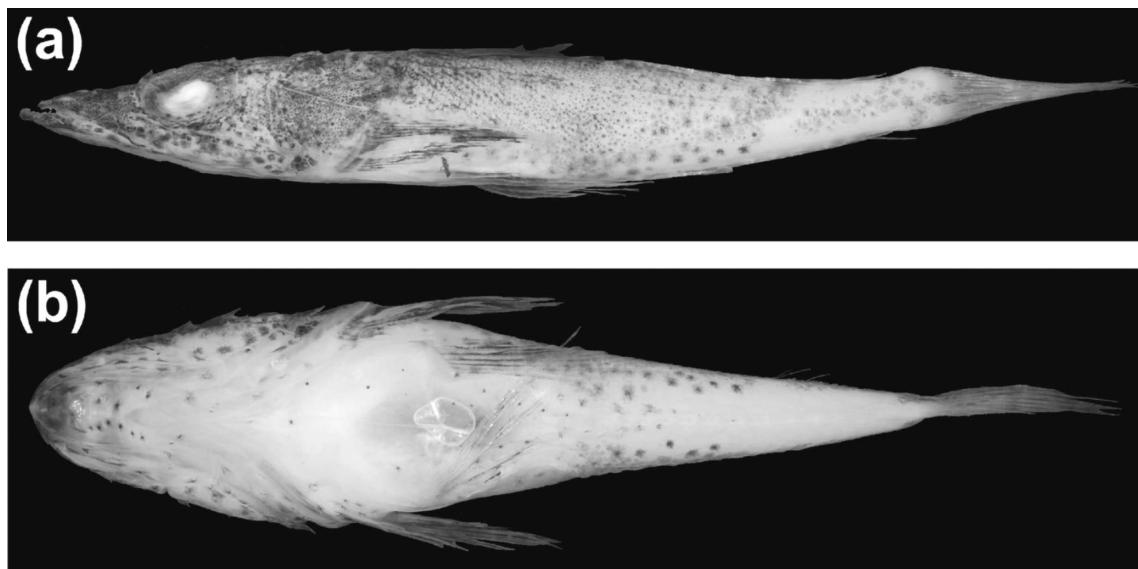


Fig. 1. Lateral (a) and ventral (b) aspects of *Suggrundus meerdervoortii*, HUMZ 173209, 21.8 mm SL, from off Kamiiso, southern coast of Hokkaido.

6.0, 第1背鰭基底後端から第2背鰭起部までの長さ2.8, 腹鰭基底後端から臀鰭起部までの長さ20.6。

体はやや側扁し、腹部を除き鱗で覆われる。頭部および吻はよく縦扁し、幅広い。吻部に1本の鼻棘がある。眼は楕円形を呈し、瞳孔上縁部に単一の虹彩皮弁をもつ。眼窩前方に1本の涙骨棘、背方に1本の眼上棘、下方に2本の眼下骨棘および後背方に1本の眼後棘があり、眼窩前部に眼前棘がある。口は大きく、上顎後端は眼窩前縁を超える。下顎先端は上顎先端より前に位置する。両顎の歯は小さい円錐状を呈し、歯帯を形成する。鋤骨に2枚の歯板がある。口蓋骨歯がある。後頭部に1本の頭頂棘および側頭棘、および3本の頸棘がある。後頭部の正中線上に上後頭骨隆起がある。前鰓蓋骨棘は5本で、最上棘が最も長く、その基部に1本の短い付属棘を備え、下部の4本は鈍く短い。主鰓蓋骨に2本の棘がある。間鰓蓋部に皮弁がない。第1背鰭は棘条からなり、その起部は胸鰭基部上端のほぼ直上に位置する。第2背鰭起部は第1背鰭基底後端と近接する。腹鰭は長く、その後端は臀鰭起部に達する。臀鰭起部は第2背鰭起部の直下よりわずかに後方に位置し、その基底は第2背鰭の基底よりもやや長い。尾鰭は截形を呈する。側線鱗は外孔をもたない。

10%ホルマリン固定後に、50%イソプロピルアルコールに保存した標本の色彩は、体は腹面の前部および尾柄部の腹面は淡褐色を呈し、体の背面の前部、第2背鰭基底の中央部周辺および尾柄部の側面に濃褐色帯がある。体の腹面の前部に小さな黒色素胞が散在する。頭部は腹面を除き濃褐色を呈し、その腹面にやや大きな黒色素胞が散在する。第1背鰭、および胸鰭と腹鰭の中央部は濃褐色を呈する。第2背鰭および尾鰭に小褐色斑が散在する。

#### 分布

本種は、北海道南部以南から東シナ海、および黄海に分布し、浅海から水深100mの砂泥底に生息する (Matsubara and Ochiai, 1955; 落合, 1984; 本間, 1992; 塩垣ら, 1992; Imamura et al., 1996; Nakabo, 2002; 本研究)。

#### 備考

本標本は体サイズ (標準体長21.8mm) から稚魚であると考えられる。また、本標本は背鰭および臀鰭軟条数が11である、頭部が縦扁する、瞳孔上縁部に単一の虹彩皮膜がある、2本の眼下骨棘がある、第1背鰭が濃褐色を呈するなどの特徴をもち、これらの形質はImamura et al. (1996) が示したほぼ同サイズのメゴチ *Suggrundus meerdervoortii* の稚魚 (標準体長19.1–24.4mm) とよく一致した。一方、これらのうち虹彩皮膜の形態および眼下骨棘の数は従来大型個体にもとづいたメゴチの記載と一致しない (大型のメゴチでは虹彩皮膜は二葉を呈し、眼下骨棘は4本以上である) (Matsubara and Ochiai, 1955; 落合, 1984; Imamura et al., 1996; Nakabo, 2002)。しかし、Imamura et al. (1996) によれば、メゴチではこれらの特徴はそれぞれ標準体長約31mmおよび44mmで発現する。本研究では本標本をメゴチと同定し、上述の本種の諸形質は本標本が稚魚であるため、形成されていないと判断した。

本種はこれまで青森県以南から東シナ海、および黄海に生息するとされてきたが (Matsubara and Ochiai, 1955; 塩垣ら, 1992 など)、本研究で初めて本種を北海道から確認した。従って、本研究はメゴチを北海道からの初記録および本種の北限記録として報告する。

### ヒゲセジロハゼ

*Clariger papillosus* Ebina, 1934

(Figs. 2-3)

#### 材料

HUMZ 200854, 標準体長 18.5 mm, 北海道函館市根崎沖, 水深 15 m, 潜水採集, 2007 年 12 月 1 日。

#### 記載

背鰭鰭条数 III-I, 13, 臀鰭鰭条数 I, 12, 胸鰭鰭条数 18, 腹鰭鰭条数 I, 5, 脊椎骨数 33。

体長に対する各部位の百分率 (%)：頭長 27.6, 頭高 9.2, 頭幅 13.0, 体高 16.2, 吻長 6.5, 眼窩径 4.3, 眼後長 17.3, 両眼間隔 3.8, 第 1 背鰭前長 46.5, 第 2 背鰭前長 60.0, 腹鰭前長 25.9, 臀鰭前長 63.8, 胸鰭長 17.3, 第 1 背鰭基底長 6.5, 第 2 背鰭基底長 27.0, 臀鰭基底長 20.0, 尾柄長 17.8, 尾柄高 9.7, 第 1 背鰭基底後端から第 2 背鰭起部までの長さ 7.6, 腹鰭基底後端から臀鰭起部までの長さ 38.4。

体は無鱗で、細長い円筒形を呈する。頭部は幅広く、縦扁する。吻は鈍く、幅広い。吻の前上部に 3 本の髭がある。鼻孔の外側に皮褶がある。眼は小さく、下方に 5 本の髭がある。口裂は大きく、上顎の後端はほぼ眼の後縁に達する。下顎は上顎より僅かに突出し、前下部に 4 本の髭がある。

両顎の歯は小さい円錐状を呈し、歯帯を形成する。鋤骨および口蓋骨は歯をもたない。舌の先端は深く凹む。鰓裂は側面に位置し、その下端は胸鰭起部の下端とほぼ同位である。胸鰭は扇状を呈し、上部に 2 本の遊離軟条がある。腹鰭は左右の要素が変化し、吸盤を形成する。第 1 背鰭は小さく、第 2 背鰭とよく離れる。臀鰭基底は第 2 背鰭基底より短い。尾鰭は円形を呈する。

カラー写真に基づく生鮮時の色彩は、体の背面は淡褐色を呈し、腹面前部は白色を、後部は褐色を呈する。吻端から尾柄下半部にかけて幅広い褐色帯がある。頭部側面に不規則な白色斑が散在し、尾柄下部に白色の鞍状斑がある。尾鰭は褐色を呈し、小白色斑が散在する。

#### 分布

本種は北海道南部から宮崎県、佐渡島および伊豆大島に分布し、潮間帯から浅海域に生息する (Ebina, 1934; 松原, 1955; 明仁親王, 1984; 塩垣, 1982; Akihito et al., 2002; 本研究)。

#### 備考

本標本は第 1 背鰭があり、3 棘である、体が無鱗で、細長い円筒形を呈する、眼の下方に複数の髭がある、胸鰭上部の遊離軟条が 2 本以下であるなどによりセジロハゼ属 *Clariger* に属する (Jordan and Snyder, 1901; 明仁親王,



Fig. 2. Lateral aspect of *Clariger papillosus* (right side), HUMZ 200854, 18.5 mm SL, from off Nesaki, southern coast of Hokkaido.

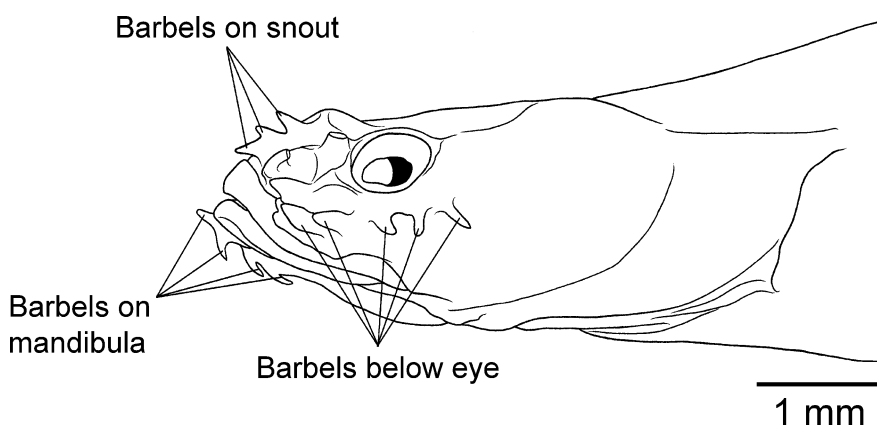


Fig. 3. Lateral aspect of head of *Clariger papillosus*, HUMZ 200854, 18.5 mm SL.

1984; 林・白鳥, 2003; 鈴木・渋川, 2004)。また, 本標本は臀鰭軟条数が12である, 胸鰭上部に2本の遊離軟条があるなどから, 本属魚類のヒゲセジロハゼ *Clariger papillosus* およびセジロハゼ *C. cosmurus* に類似する。さらに, 本標本は吻の前上部に3本の髭がある, 下顎の前下部に4本の髭がある, 臀鰭基底が第2背鰭基底よりも短いなどの特徴をもち, これらの形質はヒゲセジロハゼとよく一致する (Ebina, 1934; 明仁親王, 1984; Akihito et al., 2002)。よって, 本研究では本標本をヒゲセジロハゼと同定した。

本種はこれまで青森県から宮城県, 佐渡島および伊豆諸島に分布するとされてきたが (Akihito et al., 2002 など), 本研究で初めて本種を北海道から確認した。従って, 本研究はヒゲセジロハゼを北海道からの初記録および本種の北限記録として報告する。

## 引 用 文 献

- 明仁親王 (1984) ヒゲセジロハゼ, p. 269, pl. 254-M, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京。
- Akihito, Sakamoto, K., Ikeda, Y. and Sugiyama, K. (2002) Gobioidae. pp. 1139-1310, Nakabo, T. (ed), *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*, English edition, Tokai University Press, Tokyo.
- Ebina, K. (1934) Description of two new fishes from Kominato, Prov. Bōsyū. *J. Imperial Fish. Inst.*, **30**, 211-217.
- 林 公義・白鳥岳朋 (2003) ハゼガイドブック. TBSブリタニカ, 東京。

- 本間義治 (1992) 新潟県海の魚類図鑑. 新潟日報事業社, 新潟。
- Hubbs, C.L. and Lagler, K.F. (1958) Fishes of the Great Lakes region. *Bull. Cranbrook Inst. Sci.*, (26), i-xv, 1-213, pls. 1-44.
- Imamura, H., Yabe, M., Iguchi, M. and Amaoka, K. (1996) Juvenile development of a flathead, *Suggrundus meerdervoortii* (Scorpaeniformes: Platycephalidae). *Ichthyol. Res.*, **43**, 47-53.
- Imamura, H. and Knapp, L.W. (2009) A new species of the flathead genus *Onigocia* (Teleostei: Platycephalidae) collected from the Coral and Tasman Seas. *Zootaxa*, **2008**, 23-28.
- Jordan, D.S. and Snyder, J.O. (1901) A review of the gobioid fishes of Japan, with descriptions of twenty-one new species. *Proc. U. S. Nat. Mus.*, **24**, 33-132.
- 松原喜代松 (1955) 魚類の形態と検索 (第1版), 1-3. 石崎書店, 東京。
- Matsubara, K. and Ochiai, A. (1955) A revision of the Japanese fishes of the family Platycephalidae (the flatheads). *Mem. Coll. Agr. Kyoto Univ.*, (68), 1-109.
- Nakabo, T. (2002) Platycephalidae. pp. 615-620, Nakabo, T. (ed), *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*, English edition, Tokai University Press, Tokyo.
- 落合 明 (1984) コチ科. pp. 307-308, pls. 288-289, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京。
- 塩垣 優 (1982) 青森県産魚類目録. 青森県水産試験場報告, (1982), 1-36.
- 塩垣 優・野村義勝・杉本 匡 (1992) 青森県産魚類目録補訂-I. 青森県水産増殖センター研究報告, (7), 17-31.
- 鈴木寿之・渋川浩一 (2004) 決定版日本のハゼ. 平凡社, 東京。